街づくりや農業に必要な金属部品の製造で持続可能社会の発展に貢献

株式会社　汎建大阪製作所

HANKEN

100年以上前に鋼製建具の製造からスタートし、現在では小型建機用バケットやブーム・アームの製造をしており、小型建機用バケットは国内トップシェア。人々が暮らす街をつくり、災害時の復興にも必要な建設機械、人々が食べる作物を育み、実りを豊かにする農業機械、これら無くてはならない建機・農機部品の製造販売をしている、㈱汎建大阪製作所。代表締役社長の川村純一氏に、これまでの会社発展の経緯と今後の戦略についてお伺いしました。

時代のニーズに合わせて変化

当社は小型建機のフロント部品であるバケットやブーム・アーム・ブレードをはじめ、エンジンマフラーなどを製造しています。

創業は1923年、曾祖父である川村脩蔵が創業者となります。当時は木製建具が主流である中、鋼製建具の設計製作をしており、防犯対策が必要な大阪の銀行や百貨店に、金属製のドアや門扉を納品していました。会社名は「建築物を広く普及させる」という意味で合名会社汎建製作所と名付けられました。

1959年、祖父である川村宏が会社を継ぎましたが、祖父が技術者だったことから、さらに付加価値のあるものを開発するべく、自社設計でエンジンマフラーを作りました。このエンジンマフラーは、農機、建機、汎用エンジン用として、現在でも製造しています。

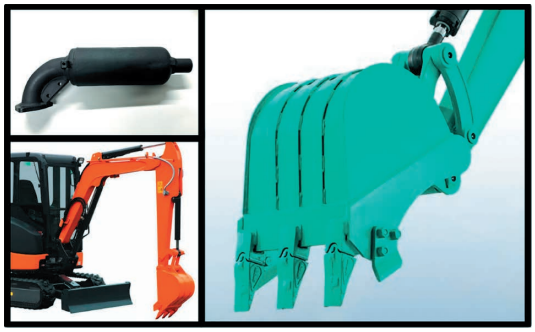
1986年、伯父である川村尚と父である川村力で分社化します。伯父は奈良にある工場を株式会社汎建奈良製作所として、父は大阪にある工場を株式会社汎建大阪製作所として設立し、両社とも建機部品の製造をしています。1994年、父は海外進出を果たしており、中国の天津に工場を設立しました。その頃から、排ガス規制や電動化の流れにより、エンジンマフラーの需要が減っていくことから、培った溶接技術を活かすことができる小型建機用バケット、ブーム・アーム・ブレードの製造を開始しました。現在では、小型建機用バケットは国内トップシェアを獲得しています。

多種少量品の生産を強みに

農機、建機、汎用エンジン用のマフラーは、自動車向けの大量生産品とは違い、多種少量の生産となります。そこから派生し、小型建機用バケットの製造も始めましたが、バケットの幅や補強、底板の形状を変えるなど、エンジンマフラー同様に種類が多くあります。レンコン掘機といったような、レンコンの収穫に特化したバケットもあるほどです。

このように、バケットによって補強部分も変えたり、吊り下げられるようなフックをつけたりと、様々な種類を製造しなければなりませんが、こうしたきめ細かな対応は、大手企業ではなかなかできません。私たちはこのように高い技術力で多種少量品を強みとして生き残ってきました。

今後も小型建機業界は、長期的に発展していくとみています。なぜなら、世界は都市化していくので、都市化に伴い狭いところでも作業可能な小型建機は今後も安定した需要が見込めるからです。



（左上）エンジンマフラー（左下）ブーム・アーム・ブレード
（右）小型建機用バケット

新たな事業への挑戦

当社の本業は建機部品となりますが、新たな事業にも挑戦しています。腕時計型の端末使って工場や建設現場で働く作業員を管理する仕組みを、システム会社と一緒に開発し、販売も行いました。当時は、作業員の安全性や生産性を管理するウェ

代表取締役社長　川村　純一 氏

株式会社　汎建大阪製作所

事業内容：建設機械部品、農業機械部品の製造販売
本　　社：兵庫県明石市二見町南二見 19 番の 6
創　　業：1923（大正 12）年 3 月
社 員 数：180 名（連結）

会社ホームページへリンクします

アラブル端末は珍しく、販売時には、多くのメディアや記事で紹介され注目されました。こうした新規事業は、積極的に今後も取り組んでいき、新たな領域へ発展させたいと考えています。

このような IoT 化に伴い、DX も進めています。検査において、紙のチェックシートを廃止し、タブレット端末上での検査シートへ変更しました。そうすることで、フィードバックやデータ集計を一段と早く進めることができました。さらに自社開発アプリを活用し、生産進捗管理を行っています。

（左）IoT現場革新システム　Work Watch®
（右）自社開発生産進捗アプリ

人とロボットの共存を目指す

当社は、30 年程前に中国の天津に工場を設立しました。現在では生産のほとんどを、この中国で行っています。そこでは先進の溶接ロボットにより自動化を進めており、この導入によって高い生産性を得ることができました。

しかし、自動車部品とは違い、私たちの製造品は全てロボットで行うことはできません。多種少量品であるため、オプションの取り付けなど、最後の仕上げ作業においては人が行わなくてはいけない工程があります。その技能教育にも力を入れており、天津市で行われた溶接技能競技大会では、銅賞 1 名、優秀賞を 4 名受賞し、地区最多受賞となりました。

このような人づくりには、コミュニケーションが大切と考えています。人材登用などの裁量権を現地責任者に委譲しており、その国の文化、企業風土に合った人材管理、教育を行っているため、中国の天津工場では、他の中国工場と比べ離職率は低いです。このような「組織の現地化」を進めていけたのは、日本人駐在員を配置せず、本来行うべきコミュニケーションを、私と現地責任者とで直接行っているからと感じています。

（左上）中国天津工場（右上）溶接ロボット
（下）天津市 溶接技能競技大会受賞

当社は昨年に創業 100 周年を迎えました。日本や世界各地では、残念ながら災害や紛争が絶えないですが、私たちの事業はこれらの復興や人々の暮らしの回復にも大きく貢献します。そのことを心に刻みながら、生産性の向上と効率化を進めていき、また新規事業も生み出していきたいと考えています。その中で、高い技術を身につけたベテラン社員、技能実習生や現地技術者などの外国人、これからを担う若手、全てが必要な人材です。このバランスを保ちながら持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えています。

―貴重なお話をいただき、ありがとうございました